

伊藤 精史

市川市無防備平和条例請求代表者意見陳述

請求代表の一人、伊藤精史です。昭和10年生まれの70才です。英語の教員を40年やって4年前に退職しました。東菅野に平成元年から住んで、現在町の自治会の役員もやっております。盆踊りや運動会、防犯防火の夜回り等に精を出しています。また私は学生時代からのキリスト信徒で地域の教会にも行っております。私の陳述が市川市の最も平均的な市民の声だと思って聞いて頂ければ幸いです。

まず、私が今回の平和無防備運動にかかわったわけを、簡単に述べさせて下さい。

私が10才のとき太平洋戦争が終わりました。戦後の実にのびのびとした時期に小・中・高等学校を過ごしました。あの『リンゴの唄』の時代です。大学に入って法律の勉強を始めました。経済急成長の頃でしたが、新憲法の理想主義的精神を学べば学ぶほど、当時の政治状況とのズレに悩みました。特に憲法9条があるのに警察予備隊が出来、それが保安隊に、またたく間に自衛隊になって行きました。政治の現実の前に法が全く無力でした。法律家が、憲法9条と現実のギャップを法解釈という手段で埋めようと四苦八苦しているのに幻滅し、法律の勉強を断念してしまいました。

あれから40年経って、今や自衛隊は軍隊になろうとしています。当時ノンボリ学生で過ごしてしまった過去を猛省し70才ながら行動するシニア平和主義者に変身しようとしています。

さて、戦争中の私の子供時代、隣組がありました。バケツリレーで火消し訓練をしばしば行ったり、棒の先に荒縄をくくり付けて「火ばたき」を作ったりしました。でも、それらは東京の焼夷弾空襲のもとでは全く役立たずでありました。けれども『防空演習！、防空演習！』とか、『竹槍で米兵を刺し殺せ！』の掛け声は、住民の危機感を煽り、戦時態勢を推進して行くのに實に有効でありました。権力が軍事力の増強を計ろうとする時、国民の支援体制を築こうとするのです。今施行されようとしている「国民保護法」はまさに地域の戦時態勢作りの始まりです。！自治体住民を戦時態勢に組み込んで行くため、市町村に「国民保護協議会」を設置させ、「計画書」を策定させようとしています。しかもこれは地方議会を全く関与させないために、議決を不要とする仕組み、をとっています。これは住民の安全、福祉を目的とする地方自治法の精神を全く否定するものです。

さて署名運動をやっていて多くの人達に『「無防備」ってどういうことです

か?』という質問をよく受けました。それに対して私が、『戦争はお互いに武器を持つことから始まるんじゃないですか。その武器を、こちら側が持たないことから始めなければいけないです。武器を放棄して初めて、ジュネーブ国際条約が私たちを守ってくれるのです』、と答えると、『守られる保証はあるんですか』とまた尋ねるひとには、世界大戦中のドイツ軍に対するフランス・パリの無血開城のこと、また沖縄の前島では国民学校の校長が日本軍の引き上げを実現したため、米軍の砲撃を免れた事実を話させていただきました。

署名運動に対する市民の反応は日が進むにつれて大きくなり、ご自分の署名を済ますと、「頑張ってください。」といつてくれる人の数も覚え切れないほどになっていきました。それほど市民の皆さんのが、平和・憲法・環境などに強い関心を持っているという手応えをいただきました。

私たちの署名呼びかけに対する反応の強さは、街頭でだけではありませんでした。先にいいましたように私は自治会の役員をやらせていただいております。自治会のある会合で無防備平和署名運動の話をする機会をいただき、説明が終わると、大勢の人々が署名簿を持ち帰って下さったのには感激いたしました。自治会というものが上意下達の機能しかもたない組織かと思っていたのは私の誤りでした。

また、私は教会でも励ましとサポートをいただきました。いつも牧師は説教の中で今起こっている戦争を私たちの信仰に深くかかわる問題として取り上げます、また、みんなで「平和の祈り」もしています。今回の署名集めでは教派を越えて 3 つの教会から多くの方々のサポートをいただきました。「主よ、私を あなたの 平和の どうぐ としてください。」と祈っています。

今年の初め私は年賀状に次のようなことを書きました。「私もお歳様で元気に古希を迎える日々平穡に過ごしております。戦後 60 年の平和の有難さを身に沁みて感じているこの頃です。しかし目を外に転じれば私の享受したこの平和な 60 年間に世界中でどれ程多くの人たちが戦争のために命を落としたかと思うと、私は天が与えてくれたこの恵みにどれ程感謝しているかわからない程です。でも、そのあふれるばかりの恵みに対して、私は一体どれだけのことをしたでしょうか。?」

砲弾で身体の一部を失い血をながしているイラクの子供達や老人達、パレスチナとイスラエルにおける惨状をテレビで見るたびに、人間はどうしてこんなことになっているのだろうか、と悲しくなるだけです。武器・兵器などというものが存在しなければ、人間が人間を傷つけ殺しあうことも出来ないはずです。そして際限のない

兵器の開発。これは人間だけの底知れぬの欲望と憎しみが生み出しているのです。でも、この欲望や憎しみの心を人間から払拭することはとてもできないでしょう。そうだとなれば、武器・兵器を作らないこと、持たないこと、持ち込ませないこと、それしか道がないのではないかでしょうか。この余りにも単純な、子どもにもわかる真理を出発点としない限り、戦争によって傷つき、殺される人が絶えることはありません。この3原則のどれかに反する行為はそれが国家権力であれ他国の圧力であれ絶対に許さないことです。私は自分の命をかけても抵抗しなければならないと決意しています。そうしなければ、その兵器で自分が人を傷つけ、人を殺すのと同じだと考えるからです。

この兵器廃絶 3 原則の運動をみんなが力を合わせてやれば出来ないことではないのです。それが今私たちが取り組んでいるこの平和無防備運動です。難しい問題はたくさんありますが、兵器が人を殺傷するのだから、まずそれを廃絶する、という単純な真理から目をそらせてはいけません。自衛のための武器だとか、国際貢献のためとかいってはなりません。

街頭で署名して下さって「そうですね、武器があるから戦争になるんですよね！」と答えてくれた方々は何が眞理であるかを見抜いていると感じました。

私は本当の民主主義は地方自治から始まると思います。

市長さん、議員の皆さん、市民の素朴な気持ちを汲み上げてください。「民の声は神の声」です。その実現が民主主義の第一歩です。この真実を市川市政の力としてください。そして市川から日本の政治を変革し、世界から戦争を無くしていくうではありませんか。ありがとうございました。